

昭和医療技術専門学校のスローガン  
「全員卒業・全員合格」を掲げての3年間  
～担任の立場から～

○香取尚美<sup>かとりなおみ</sup>、望月泰男、谷口智也、生江麻代、檜山由香里、山藤 賢  
(昭和医療技術専門学校)

【はじめに】本校では、これまでも、本校のスローガンの一つである「全員卒業・全員合格」の真の意味合いや目的、チャレンジについて発表を行ってきた。昨年度は、最終学年において、幸いにも一人の留年者・途中退学者も出さずに全員で国家試験を受験し、全員が合格することが出来た。その要因と取組を今回は担任の立場からということで報告し、検証する。

【対象・結果】昨年度31期生(66名)は、3年スタート時(4月)の模擬試験において、最低得点者は47点(23.5%)であり、学年平均は37.3%であった。この成績をもとに、最終的に国家試験までに全員が60%をクリアーできるようになるための戦略を作成した。詳細は発表内で報告するが、結果的に全員が卒業し、国家試験を受験、全員が合格することが出来た。

【考察】本校が掲げる「全員卒業・全員合格」の意味合いは、国家試験の合格率を高めることが学校の目的ではなく、入学した学生一人一人が幸せになってもらえるように、我々が学生と向き合うことが大切であるという考えに基づいている。昨年度の学生達も、大きな目標に向かって自分達で主体的に道を切り開いてきた。3年間担任として関わってきた中で、全員卒業の確定を告げた日、国試の全員合格を告げた日、その達成感と喜び、感動は何物にもかえ難い大きなものであった。しかし、学年全体としての力や絆は、3年時だけで構築出来るものではない。感謝と思いやりを大切にしたい、一年次よりの継続的な本校独自の教育内容が最終的な結果に結びついたと考えている。その中身と過程が、「やらされるだけの勉強」ではなく、学年として「自発的に取り組む勉強」の姿勢に繋がる。もちろん、その過程の中では紆余曲折がある。また各加盟校の現場の先生方も、進級、合格率など、同様に頭を悩ませ、共有することは多いと思う。しかし、「education」という言葉の語源にもあるように、教育の本質は学生の能力を引き出すことであり、今後も一人一人の学生と丁寧に向き合い続けることが、我々の使命であると考えている。今後とも皆様からのご教授を受けながら我々教員が勉強と向上を続け、学生と社会に還元していきたい。